

西ノ谷奥池 水辺に親しむかつての風景



西ノ谷奥池 1972（昭和47）年頃

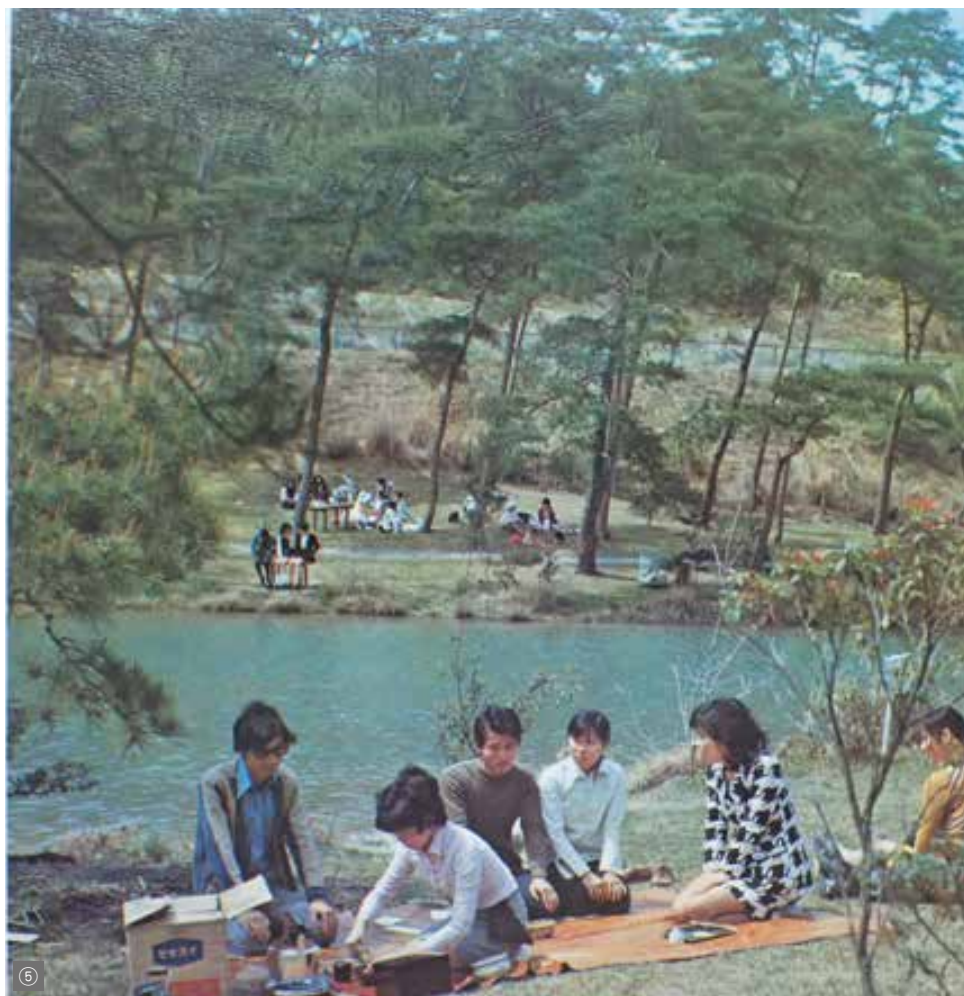


アヒルと共に。1974年（昭和49）頃（画像提供 金子治美氏）

西ノ谷奥池園地は 1965 年（昭和40）から始まった第1期整備事業の中で整備されました。水辺の園地は公園の顔でもあり、1972年（昭和47）発行のパンフレットでも、その風景（写真③）が表紙を飾り、ひとりでお茶を立てて楽しむ人々の様子（写真⑥）も掲載されています。

1972 年（昭和47）記録^{（※2）}では西ノ谷奥池には「行楽期のみやっているバラック建」の売店があり飲み物等販売していたようです。バラックでは「美観上このましくないので東屋兼売店」を造るとも記載があります。

友人と遊びに来た際の写真（写真④）をご提供くださったのは、金子治美さん。人物の背後に2羽のアヒルが写っています。公園会館オープン時に浜松市動物園から寄贈されたアヒルのようです。当時の記録に「野犬狩り 池のアヒル被害あり」とあり、園内に野犬がウロついていたのかもしれない。



西ノ谷奥池 手前は野点を楽しむ人々、対岸でもベンチでくつろぐ人々が写る 1972（昭和47）年頃

【資料提供】 ②：静岡県環境ふれあい課

【画像】 ③⑤：「静岡県立森林公園」1972 年（昭和47）6月発行 パンフレットより

【参考文献・資料】 ※1：「赤佐小学校百年の歩み」赤佐小学校 PTA117-118 頁、※2：「森林公園綴（1966-1988）」、「天竜 第38 39 合併号」（1971, 02）天竜川地区青壮年林業研究協議会発行・林業知識普及会天竜支部編集、「濱名郡赤佐村誌」赤佐尋常小学校（1913）、「三方原用水さらなる豊穡の未来へ」農林水産省関東農政局・浜松市産業部・浜松土地改良区（2023）、浜松市立中央図書館デジタルアーカイブ「三方原用水の完成」<https://adeac.jp/hamamatsu-city/text-list/d100050/ht001370>

ビジターセンター バードピア 浜北

自然情報の発信、自然体験プログラムなどを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。

- 入館料：無料
- 開館時間：9:00～16:30
- 休館日：水曜（祝日の場合は翌日）と年末年始（12/29～1/3）

木工体験館

気軽に木工を楽しむことができます。工具はそろっているので、手ぶらでお立ち寄りください。

- 木工：金・土・日
- 開館時間：9:00～16:30 初回利用時に「初心者利用講習」受講が必要です。
- 休館日：月・火・水と年末年始（12/29～1/3）
- 問合せ：☎ 053-583-1559



〒434-0002 浜松市浜名区尾野 2597-7
☎053-583-0443 FAX 053-583-2700
<http://kenritsu-shinrinkouen.jp/>



静岡県立森林公園 今昔 2 西ノ谷奥池周辺

今回は写真で公園の変遷をたどります。写真①は、1970 年（昭和45）頃の園内、西ノ谷奥池です。岸边には人ばかり、人々の視線の先には水面に浮かぶ2艘

の手漕ぎボート。画面中央、向き合ってボートを漕ぐ二人、左手奥でも1人楽しむ様子が見られます。開設当初の公園計画には、自然を楽しむための文化面、スポーツ面のレジャーも多数取り入れられていました。



① 「天竜 第38 39 合併号」（1971 年（昭和46）2月）に「県立浜北森林公園」と説明され2枚の園内写真が表紙に掲載された。そのうちの一枚、西ノ谷奥池を写したもの。

画像：天竜川地区青壮年林業研究協議会・林業知識普及会天竜支部



② みはらし広場から西の谷奥池方面 1984 年（昭和59）4月25日 斜面の散策道も良く見える画面右は堰堤。

写真①と②は、どちらも西ノ谷奥池を西側から東方向に向いて撮影されています。写真②は写真①から13年後の撮影です。当時は、水辺にすぐおりられる状況だったことがわかります。また生えている高木は画像で見える限りほぼアカマツです。向こう岸は斜面の下草もとてもきれいに刈られた状態です。

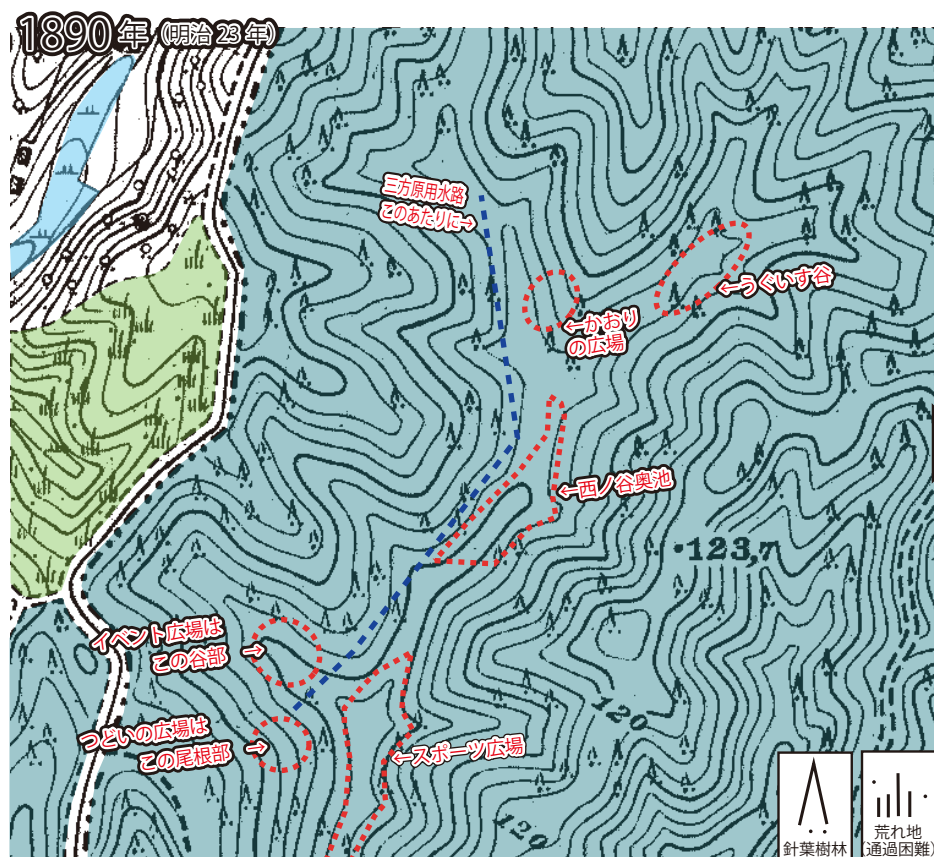
空中写真で見る 【西ノ谷奥池周辺】 大規模な三方原用水工事

西ノ谷奥池は、明治になってから築造された溜池（※1）です。下の明治23年地形図では溜池の記載はありませんが、大正2年発行「濱名郡赤佐村誌」掲

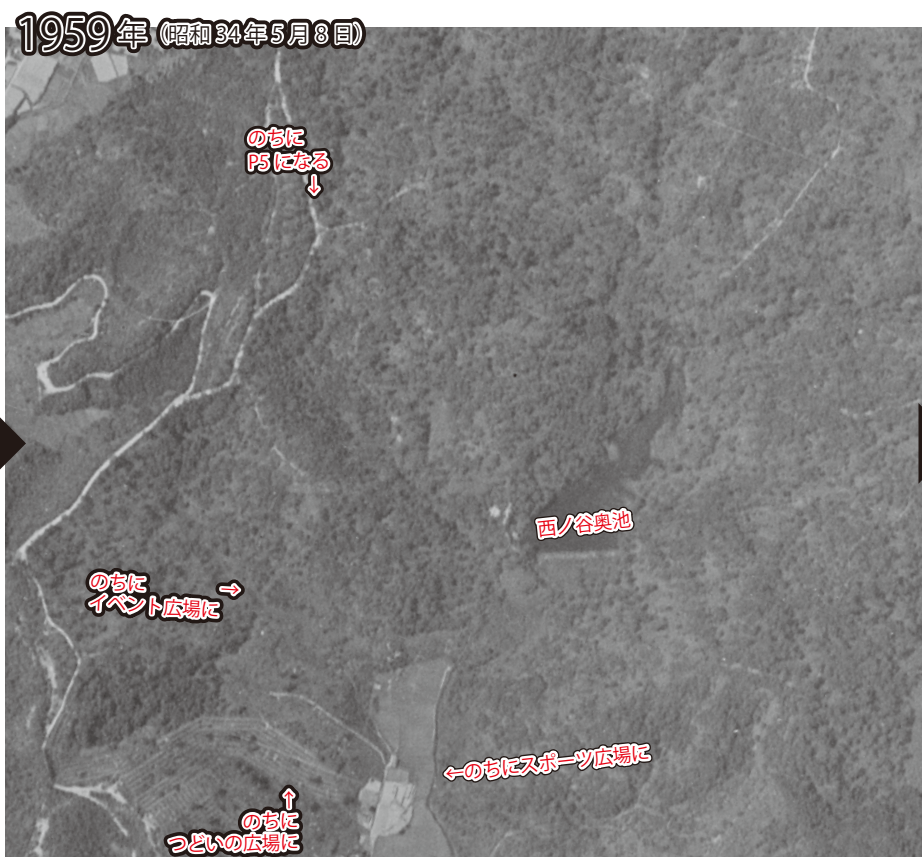
載の「赤佐村全圖」には、西ノ谷池の上流部に溜池マークが描かれます。

また、西ノ谷奥池の東を通る三方原用水は、

1962 年（昭和 37）に着工され 1970 年（昭和 45）幹線水路作業完了（国営三方原用水事業）します。空撮からも大規模事業であったことがわかります。



「s 835 龜玉村 1890（明 23）」（国土地理院）を彩色、加筆加工して作成
御料林時代の地形図。現在のスポーツ広場、西ノ谷奥池周辺一帯は針葉樹マークとなっている。
当時からアカマツ林がひろがり、マツタケがとれていたと考えられる。



「CB591YZ-P28-90 1959/05/08（昭 34）」（国土地理院）を彩色、加筆加工して作成
1925 年（大正 14）9 月に宮内省より県営林として払い下げを受けてから 34 年後の写真。まだ多くの
人々が薪や炭を使った生活をしており、秋には松茸狩で賑わっていた頃。疎林であることがわかる。



「MCB652X4C623 1965（昭 40）」（国土地理院）を彩色、加筆加工して作成
公園が開設した年。のちに第五駐車場（P5）となる場所が整地され始めている。三方原用水は、秋葉
ダムから三方原台地に向け 22 キロにわたって水を運ぶ。1967 年（昭和 42）8 月 28 日に通水する。



「MCB672XC9-4 1967（昭 42）」（国土地理院）を彩色、加筆加工して作成
のちに西ノ谷奥池・スポーツ広場となる谷部の西縁に沿う形で三方原用水路が造られた。P5 から西ノ谷奥池方面
に伸びる道は幅広く整備されている。のちのイベント広場とつどいの広場はこの工事期間に切り拓かれている。



「CB7413YC6A12 1974（昭 49）」（国土地理院）を彩色、加筆加工して作成
一般家庭に電気・ガスが普及して 10 年ほど経過した頃。樹木の密度も濃く
なりはじめ、高木化してきている。マツタケはすでに見られなくなっている。



GoogleEarth に、加筆加工して作成
全域の植生遷移が進む。谷すじを中心に広葉樹（濃い緑色の樹木など）が
育っているが、尾根部を中心にアカマツ（黄緑色の樹木など）も見られる。